



南海医療センター附属介護老人保健施設
施設長 森本 章生



新年あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、日本も、世界も色々なことが大きく変わってしまいました。現在のところまだまだ収束の目処が立っていないという状況で、昨年この紙面上で“東京オリンピック”のことを記載しましたが今年に延期となり、今年も新型コロナウイルス感染症の状況によってどのようになるのか心配なところです。

さて新型コロナウイルス感染症は、高齢の方や基礎疾患のある方に重症化の傾向があると言われております。老健施設に入所されている方々は、ほとんどがそのような方々だと思っておりますので、当施設でも感染が起こらないよう皆さんに面会制限をさせていただいております。お互いに大変寂しい思いをされていると思っておりますが、テレビ電話による面会を整備しましたので、ぜひご利用されることをお願いいたします。

ワクチンや治療薬が早く開発され、以前のような生活に戻ることを切に希望し、本年のご挨拶に変えさせていただきます。今年も南海老健をよろしくお祝い申し上げます。

副施設長 神崎 啓慈



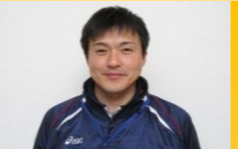
あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたこと、お慶び申し上げます。昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまで経験したことのない生活環境となり、生活様式を変更せざるを得なくなりました。このような状況下で、ご利用者を初めご家族の皆様にも、当施設の感染防止対策にご理解とご協力を頂き大変感謝しております。また、南海老健も開設して20年が経過することもあり、施設設備の故障により、ご利用者の皆様には大変ご不便とご迷惑をおかけし誠に申し訳なく思っております。これからも、職員が一丸となり施設での感染対策に万全を尽くすとともに、ご利用者様に快くお過ごし頂ける環境づくりに取り組んで参りますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお祝い申し上げます。

リハビリテーション室 室長
理学療法士 富松 満代



新年明けましておめでとうございます。
昨年中は大変お世話になりました。日頃のご厚情に深く感謝いたします。昨年はまさに新型コロナウイルス感染予防の対応で四苦八苦した1年でした。思い返せば非常事態宣言発動時は、あらゆる行事が余儀なく中止されました。介護予防活動に携わる関係者は大慌てでした。活動の場を失った多くの高齢者の健康維持が危ぶまれたからです。今一度、4つの「助(自助・互助・共助・公助)」を思い返しましょう。「共助」「公助」...制度に後押しされた活動は自粛となり、ここで重要なのは「自助」「互助」の力です。一つ提案があります。日頃使う事が少なくなった電話をもっと活用してみてもどうでしょうか？メールやラインで繋がる世の中ですが、たまには生の声を直接聞くことで互いの安否確認にもなり、話し相手のいない独居の方には対話の機会作りになります。生の声は文字では伝えきれない元気や勇気を伝える事が出来ます。通常の生活に戻る時まで、何とか凌がなければなりません。自分の身は自分で守る強い気持ちを持つと共に、身近な人とも遠方の人とも声を掛けあい互いに助け合いましょう。

南海居宅介護支援センター
管理者 國部 昭夫



謹んで新年のお慶びを申し上げます。
昨年は居宅ケアマネジャーの業務においても、利用する介護サービスが制限されたり、一時的にサービスを変更したりと柔軟な対応を余儀なくされることがありました。利用者やご家族の皆様におかれましては不安も強く、身体的・精神的な負担も大きかったことと推察いたします。今回の経験も踏まえて、ケアマネジャーは単に介護サービスに繋ぐ役割ではなく、人と人、人と地域(環境)を繋ぐ役割を担うことが大切だと改めて学びました。また、公的な介護サービスと家族も含めた地域の支え合いとのバランスが重要で、そして、それぞれが責任や役割を持ちながら機能することも大切です。2025年の地域包括ケアシステムの構築目標まであと4年です。そのための地域づくりに私自身が何をすべきか考えながら今年も活動していきたいと思っております。今年も皆様に愛され信頼される事業所を目指し日々精進して参る所存です。今後とも変わらぬご愛顧を宜しくお祝い申し上げます。

看護師長 久保田 忍



新年あけましておめでとうございます。
全国で新型コロナウイルス感染症が収束の兆しをみせず、不安を感じておられる方も多い中、施設運営にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。昨年は、「自粛・三密回避・マスク・手洗い等」が身につけてしまった毎日でした。また、分断されがちな世の中で、改めて人と人のつながりや絆の大切さを再認識する機会でもありました。我々職員は、常に緊張感を維持しながら日々業務しています。これからも職員同士協力し合っ、大切な命を守るため、利用者様の笑顔のために努力していきます。さて、今年が丑年です。十二支の動物の中で最も動きが緩慢で歩みの遅い丑(牛)の年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年と言われています。子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされています。平穏な日々が早く訪れることを願いながら結果につながる道をコツコツと作っていきたく思います。本年もどうぞよろしくお願い致します。

管理係長 簀戸 志穂



新年明けましておめでとうございます。
昨年は新型コロナウイルス感染症の流行で日常生活が大きく変わることとなりました。ご利用者様やご家族様にはご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
今年が静かなお正月を過ごすように、初詣も「密」をさけるよう分散してお参りに行く様に言われています。「初詣」とは新しい年になって1番最初にお寺や神社を参拝して昨年一年間を無事に過ごせた感謝を伝えると共に今年も無事に過ごせますようにと新年のご挨拶と幸せの願掛けをするという意味があるそうです。新しい年が始まると気持ちも新たに身の引きしめる思いがします。この一年を無事に過ごしていただける様努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願い致します。

介護士長 川井 忠明



新年明けましておめでとうございます。
昨年は、コロナ禍ということで色々な事を制限せざるをえない一年でした。利用者の方やご家族様におかれましては、面会ができないということでストレスやご心配をお掛けしたことと思いますが、年が明けても先の見えない状況に変わりはないようです。しかし、どのような状況でも下を向いている訳にはいきません。このような時こそ、組織としての力が試されるのではないのでしょうか。そのためには、職員が一丸となって利用者の方が安全、安楽に過ごせる様に努めることが大切ではないかと思われま。先日ある方へ「あなたは物事が上手いかわからない時どうしていますか。」と尋ねたところ、「明日はよくなるだろう上手いかわからないと思いつつ過ごしています。」との返答がありました。難しいことではありますが、考え次第で気持ちが楽になることもあると思えます。先の事は誰にも分かりませんが、老健がよい方向に進むようにするため皆様の力を必要とすることに違いありません。今年もよろしくお願い致します。